

鬼頭 健吾 「せんをはかる」

2023.11.5(sun) — 12.24(sun)



「cartwheel galaxy」2023
φ700 × D38 mm pencil, acrylic on canvas

この度、rin art association は鬼頭健吾「せんをはかる」を開催いたします。

鬼頭健吾はフラフープ、スカーフ、鏡などの日常にありふれた既製品を用いて、現代的なカラフルな色彩や光を抽出させながら生命体や宇宙の広がりを感じさせる作品を発表し、国内外で高く評価されております。

絵画とインスタレーションを親和性を持たせながら展開させ、それぞれが互いに作用するように鬼頭の作品は制作されます。

近年ではミラーボールなどのモーターを用いたインスタレーションから抽出した回転運動を、スキージーを用いて表現した絵画作品「cartwheel galaxy」を継続的に制作し、車輪のように描かれたマチュールにラメやガラスを加え、ランダムな光の抽出を行なってまいりました。

今展は2022年に神奈川芸術劇場アトリウムで行われた「Lines 鬼頭健吾展」より継続的にテーマとして展開される「せん」についての考察を重さねさせるインスタレーションと、新たな取り組みとして初めて発表する鉛筆を用いて多様な線を描いた「cartwheel galaxy」を中心に構成されます。

近年において意識的に展開される線を用いたインスタレーションが次はどのように絵画に作用していくのでしょうか。

この機会に鬼頭健吾の新たな取り組みとなる線の世界をご高覧いただけたら幸いです。

鬼頭 健吾 (Kengo Kito)

1977年愛知県生まれ。

名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業。京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。

2008-2009年に五島記念文化財団の助成を受けニューヨークに滞在。2010年文化庁新進芸術家海外研修員として2年間ベルリンに滞在し、その後ドイツベルリンにて制作活動。2015年帰国後、群馬県高崎市在住。現在、京都芸術大学教授。

フラフープやシャンプーボトルなど、工業製品の現代的なカラフルさと、生命体や宇宙を感じさせるような広がりを感じさせた作品で国内外から高い評価を受ける。

主な個展にハラミュージアムアーク「Multiple StarI,II,III」展、グループ展には、森美術館「六本木クロッシング 2007: 未来への脈動」展、国立新美術館「アーティストファイル」展、エルミタージュ美術館「Mono No Aware」展、高松市美術館「ギホウのヒミツ」展がある。2020年には京都市京セラ美術館にてリニューアルオープン後、初の展覧会として個展「Full Lightness」、2022年、神奈川芸術劇場アトリウムにて「Lines 鬼頭健吾展」が開催された。

[水-日] 11:00 - 19:00 [月-火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t: 0273-87-0195 e: contact@rinartassociation.com w: http://rinartassociation.com